



基礎から学ぶ審美修復治療 ～診査・診断・治療計画の立案からマテリアルセレクション・接着操作まで～

渋谷区開業 山崎 治 先生

1999年 日本大学松戸歯学部卒業

1999年 原宿デンタルオフィス勤務

現在に至る

日本臨床歯科学会東京支部理事

日本臨床歯科学会認定医

審美修復治療というどのような治療を思い描くだろうか？前歯に白いセラミックスを装着することが頭に浮かんだ先生も少なくはないだろう。

日本では審美修復治療というと美容的な“Cosmetic”なイメージがあるが、本来の審美 (Esthetic) とは見た目の追求は勿論のことそれに伴う機能的な問題を包括し、かつ生物学的にも優れ、構造的に耐久性があり予知性の高い恒久的な治療を目指すものである。

つまり審美修復治療を成功に導くためにはこのEsthetic, Function, Structure, Biologyの4つの要件を満たしていることが必須である。また、審美的な要件にフォーカスすると、よりミクロな視点が必要になり、歯牙や補綴装置のみならず歯肉縁の位置や歯周環境にも注目すべきである。

特にガミースマイルは患者が気にされる方も多いので、歯肉の審美性を獲得するための診査・診断も必須となる。以上のように前歯部の審美修復治療においても基本的な診査・診断が重要であり、その問題点を列記し、患者の要望にあった適切な治療計画を提案すべきである。

適切な診断・治療計画が立案され、審美修復治療を実践する際には、マテリアルを選択し、補綴装置を装着しなければならない。マテリアル選択においては患者の希望、Drサイドの選択、制作する歯科技工の選択を総合的に考慮してマテリアル選択をすべきである。

近年ジルコニアを筆頭にいわゆるメタルフリーの歯科材料が以前よりかは淘汰されシンプルな選択肢になりつつあるが、各々の環境で適切に選択されるべきである。

また、補綴装置を装着する環境も格段に進歩し、象牙質接着の向上も相まって、従来のインレー、クラウンのように維持力を必要に求めない、ラミネートベニア、オクルーザルベニア、接着性ブリッジなども臨床応用されるようになってきている。その際には適切なマテリアルを選択し、その選択された各材料において基本的な“接着手技”を施すことによってより永続性の高い修復、補綴装置が患者に提供されることとなる。

本講演では、審美修復の診査・診断・治療計画の立案とその処置の伴うマテリアルセレクション、そして各材料における接着の基礎となる考えとステップを解説することとする。本講演が皆様の臨床の一助となれば幸いである。

